

策定年月	令和5年5月
見直し年月	令和 年 月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：岩手県花巻産地

(作成主体：花巻市農業推進協議会)

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## I 現状と課題について

### ①小麦

- ・当地域で主に生産されている小麦は、「ナンブコムギ」、「ゆきちから」、「銀河のちから」の3品種であり、県内外の加工業者に向けて販売されている。
- ・連作による地力の低下や収穫時の天候不順による品質低下により、実需者からの需要量を生産できておらず、穂発芽性に強く、耐病性が高い品種の導入による需要に応じた生産が必要である。

品種	面積 (ha)	R5収穫見込み数量 (t)
ナンブコムギ	2 4 5	2 9 6
ゆきちから	6 4 6	1, 4 0 1
銀河のちから	7 9	1 9 6

### ②大豆

- ・大豆については、「リュウホウ」を中心に県内外の加工業者に向けて販売されている。
- ・等級比率の低下や、収量の不安定さにより安定供給が図られていないことから、栽培技術の向上を図る必要がある。

品種	面積 (ha)	R4収穫見込み数量 (t)
リュウホウ	4 3 9	5 4 3

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## ③麦・豆共通

- ・近年、麦、大豆ともに作付面積は横ばいとなっている。
- ・麦、大豆ともに単収が低い状態となっているが、その原因は連作による地力の低下や排水不良による湿害であり、土壌診断に基づいた施肥や土壌改良資材の投入による地力の向上、排水対策による湿害の回避が必要となっている。
- ・近年は、担い手への農地の集約が急進し、1経営体あたりの作業面積が拡大したことにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、作業の効率化を図るための計画的な団地化やブロックローテーション等を推進することが課題となっている。

## Ⅱ 課題解決に向けた取り組み方針について

### ・団地化の推進

団地化率向上を図るため、花巻市地域農業マスタープランや花巻市水田農業ビジョンによる農地集積の推進と連携し、機械導入による作業の効率化や適期管理、適期収穫等、栽培期間を通じて作業を効率化し、作付け面積を拡大する。また、ブロックローテーションによる計画的な作付けおよび連作障害の回避を講ずる

### ・麦品種の検討

穂発芽性に強く、耐病性が高い品種「ナンブキラリ」の導入を検討する

### ・土づくり

土壌に起因する低収要因の改善に向けて、ほ場の土壌診断と、その結果に基づく施肥等の土づくりに向けた取組を実施する。

### ・排水対策

排水の改善に向けて、排水対策(弾丸暗渠、額縁明渠、心土破碎等)の推進を継続する。

### ・病害虫、雑草対策

課題となっている病害(麦:赤カビ病、縞萎縮病等 大豆:紫斑病等)、難防除雑草(帰化雑草類等)への対策について関係機関と適宜検討し、対策を講じる。

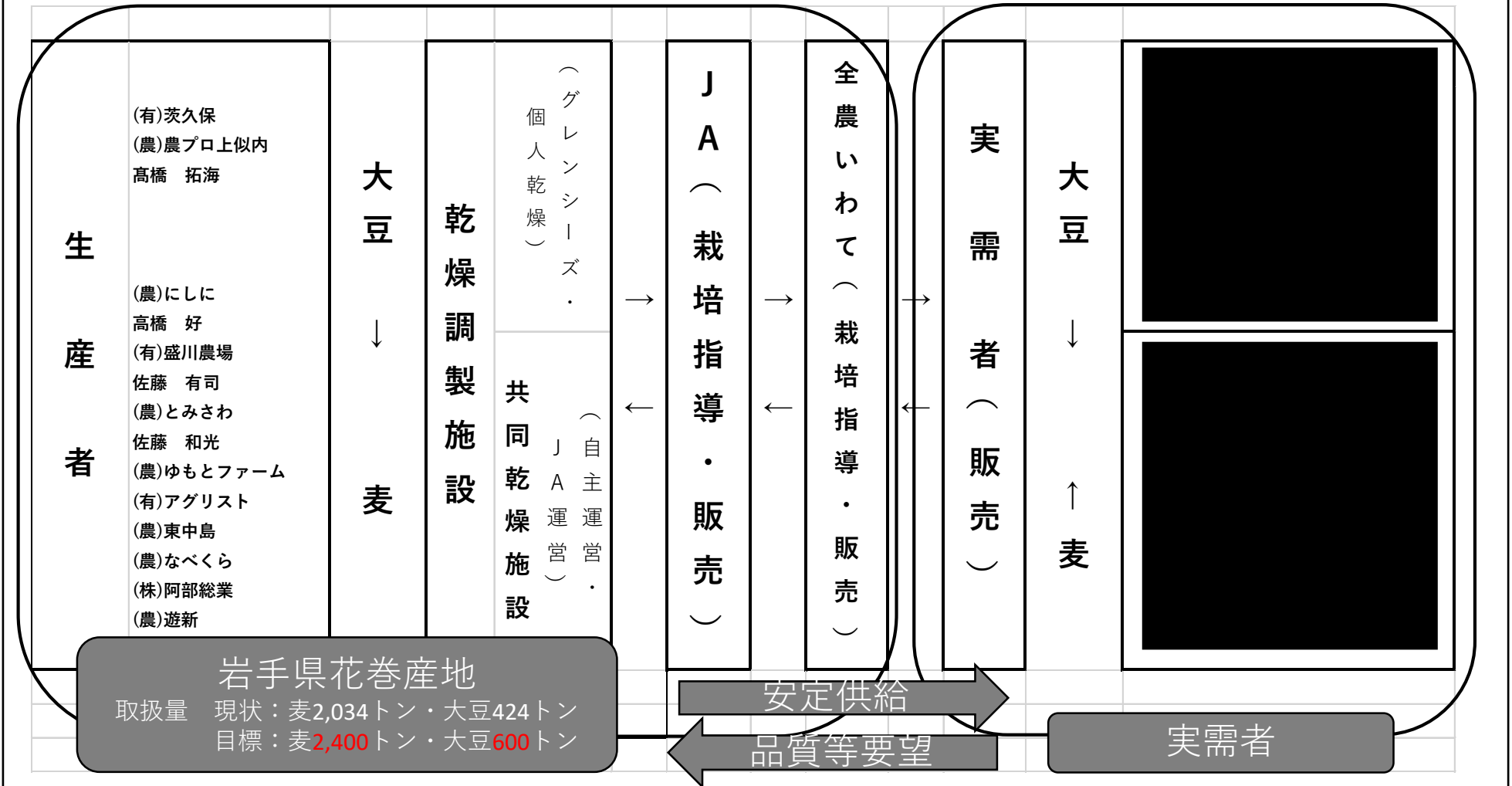
・JA等関係機関と連携し指導会等を適宜開催し、農薬等の散布時期を逸失しないよう周知を行う。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

実需から要望される品種や需要量等を適切に把握するとともに、作型や収量性を考慮し、品種の選定・導入の検討を行う。



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

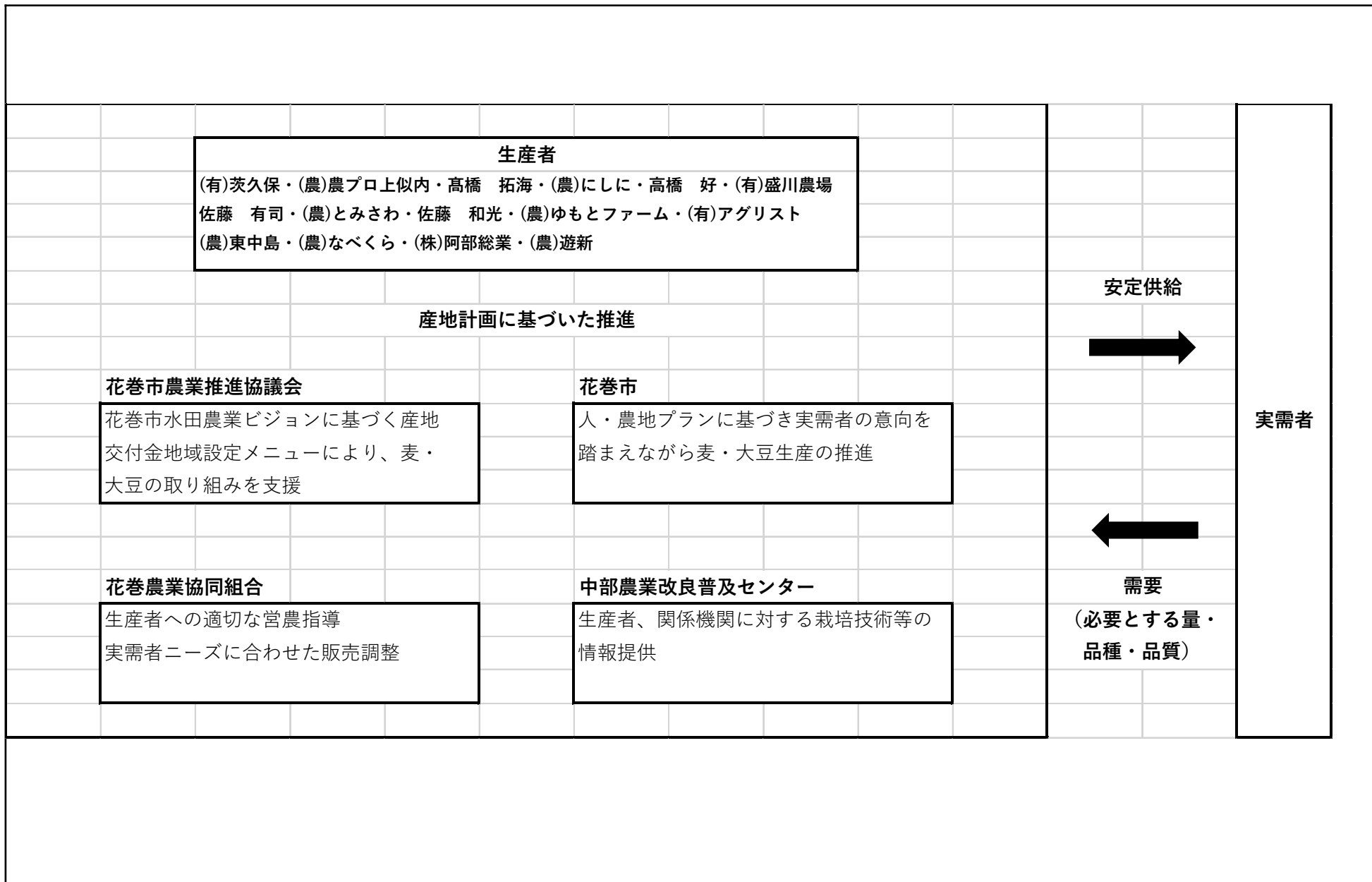
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。